

第3章 ライフステージの歯科保健の現状と課題



1 乳幼児・園児

目標 ①親子で歯みがきができ、むし歯のない子が増える
②健康な歯や口で、よく噛んで食べることができる

《主な取組》

乳幼児歯科健診における歯科健診・ブラッシング指導・フッ化物塗布・希望者に栄養相談の実施

◇表2 1歳児親子歯科健診

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受診者数	192人	191人	166人	168人	154人
受診率	95.0%	94.6%	96.0%	94.9%	96.3%

◇表3 1歳6か月児健診

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受診者数	206人	209人	194人	164人	173人
受診率	99.5%	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%

◇表4 2歳児歯科健診

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受診者数	219人	192人	195人	192人	159人
受診率	95.6%	98.0%	96.1%	100.0%	100.0%

◇表5 3歳児健診

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受診者数	243人	232人	184人	206人	185人
受診率	100.0%	99.1%	100.0%	99.5%	100.0%

◇表6 フッ化物塗布事業

乳歯のむし歯予防として、2歳6か月児、3歳6か月児の歯科健診及びフッ化物塗布券を使い、契約歯科医院で行うものです。

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受診者数	209人	218人	184人	196人	150人
受診率	44.3%	47.7%	43.4%	49.6%	38.5%

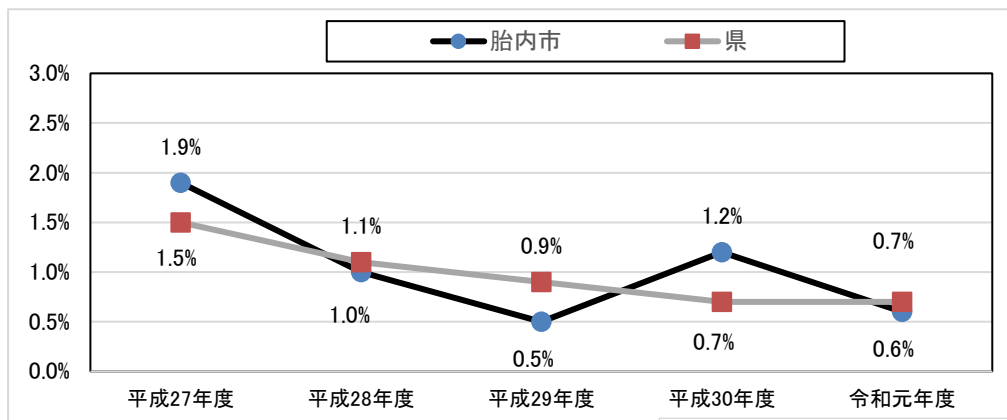
◇表7 健口胎内ワッハッ歯スタンプラリーを活用したフッ化物塗布の継続

平成25年4月から開始しました。乳幼児の子ども達が6か月間隔で歯科健診とフッ化物塗布を受けられる様に助成制度を行っています。スタンプを10個集めてゴールとなり、達成者が平成29年度から出始めています。

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
達成者数	11人	9人	30人

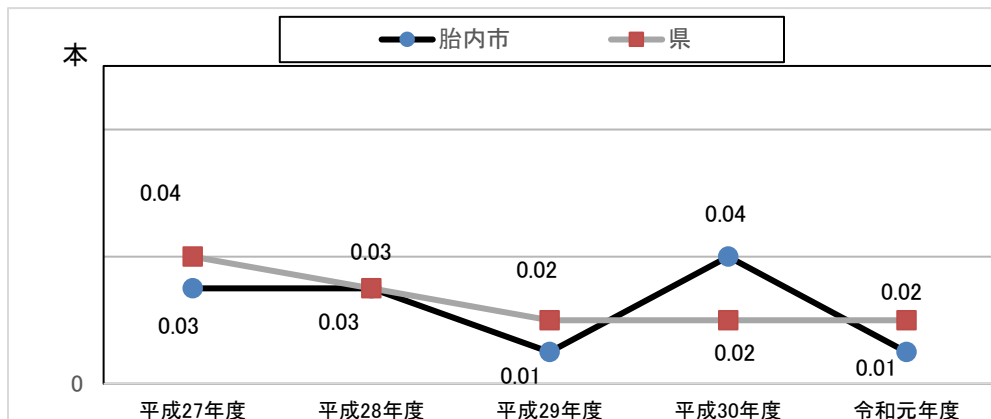
◇保育園・こども園の全施設での年2回の歯科健診の実施

■図1 1歳6か月児むし歯有病状況



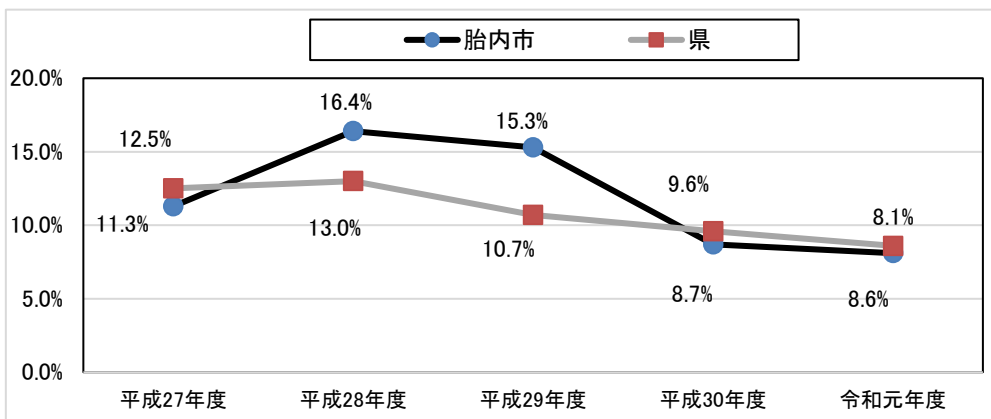
出典：母子保健事業報告(国)

■図2 1歳6か月児一人平均むし歯数



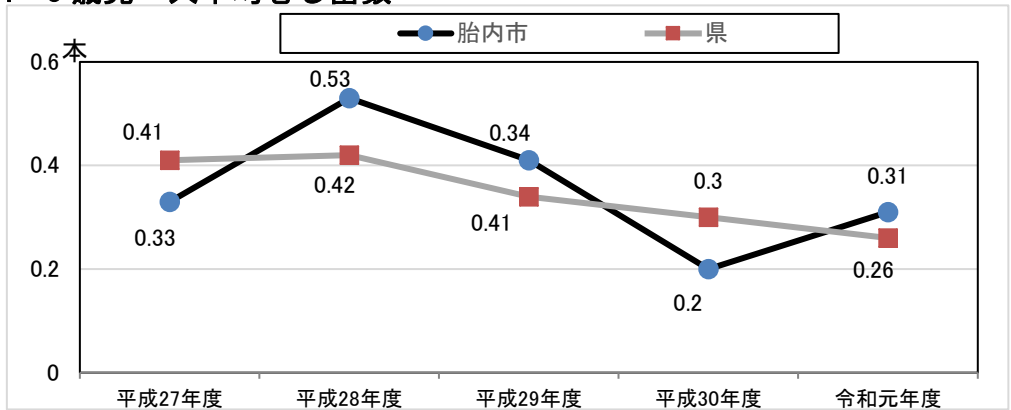
出典：母子保健事業報告(国)

■図3 3歳児むし歯有病状況



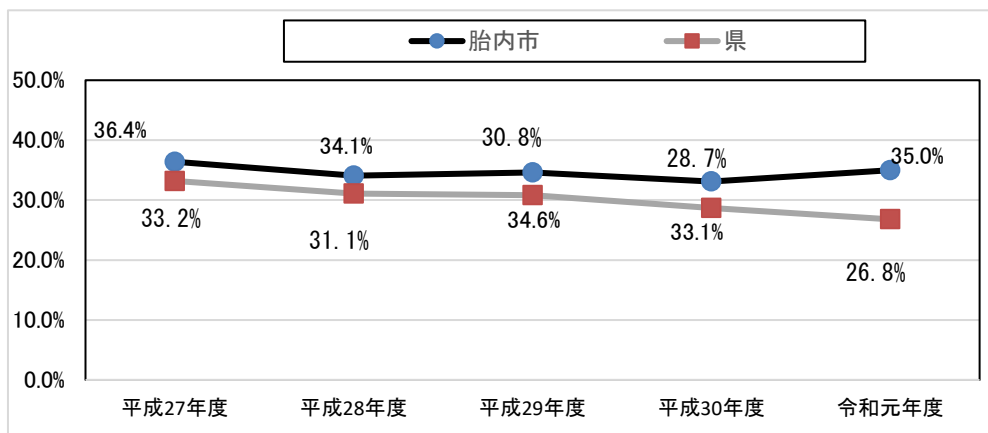
出典：母子保健事業報告(国)

■ 図4 3歳児一人平均むし歯数



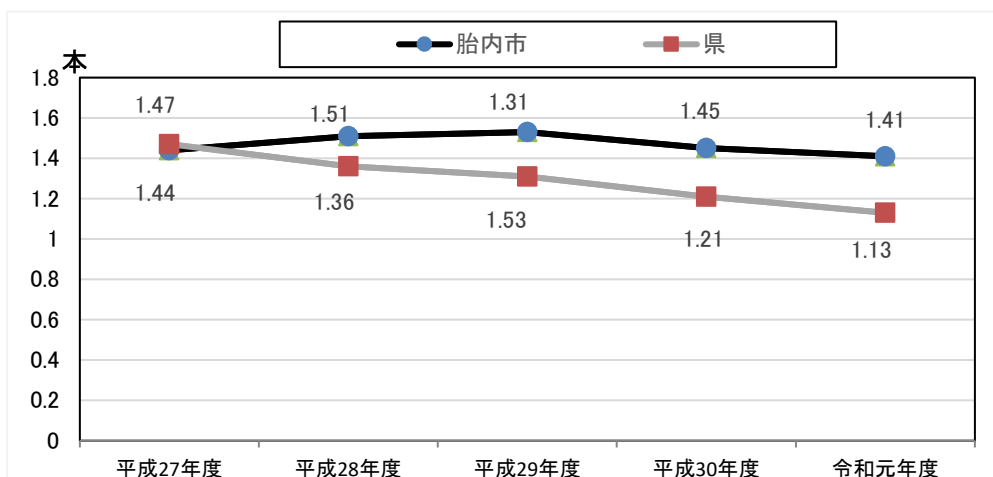
出典:母子保健事業報告(国)

■ 図5 5歳児むし歯有病状況



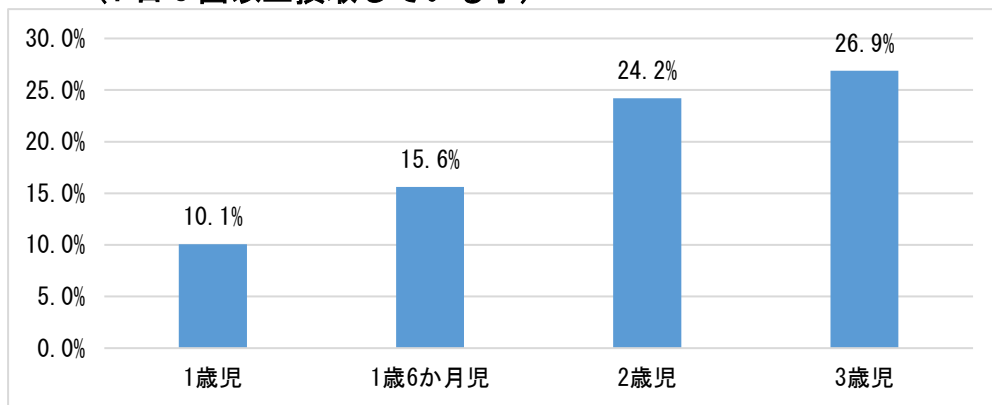
出典:小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策(新潟県)

■ 図6 5歳児一人平均むし歯数



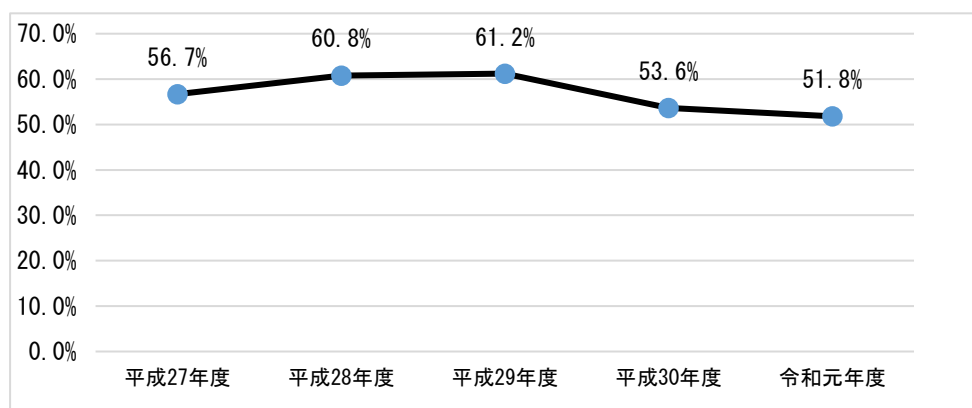
出典:小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策(新潟県)

■ 図7 令和元年度 幼児健診受診者のおやつ摂取状況
(1日3回以上摂取している子)



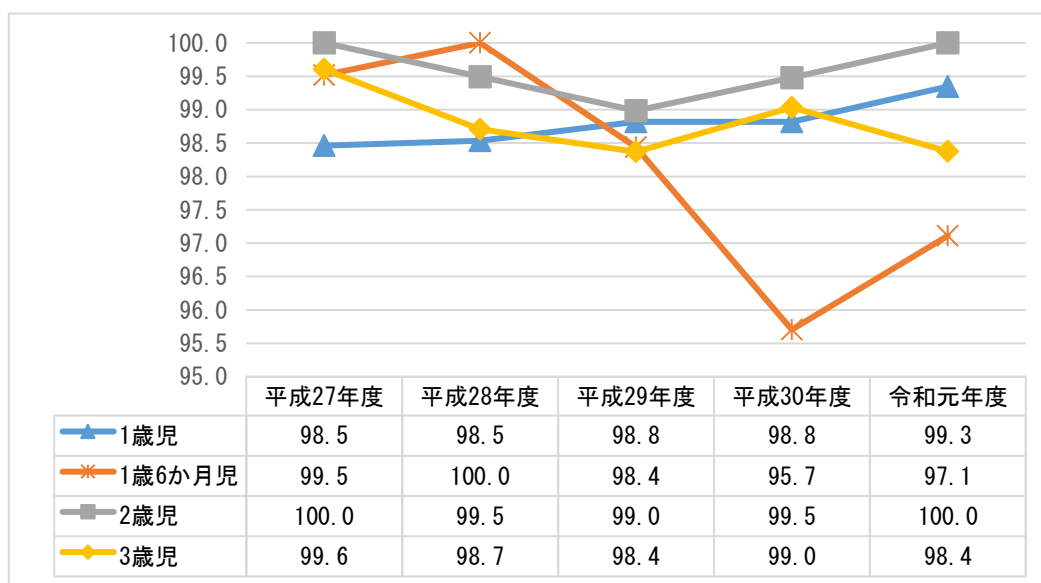
出典：胎内市幼児健診

■ 図8 3歳児でフッ素を定期的に塗っている割合



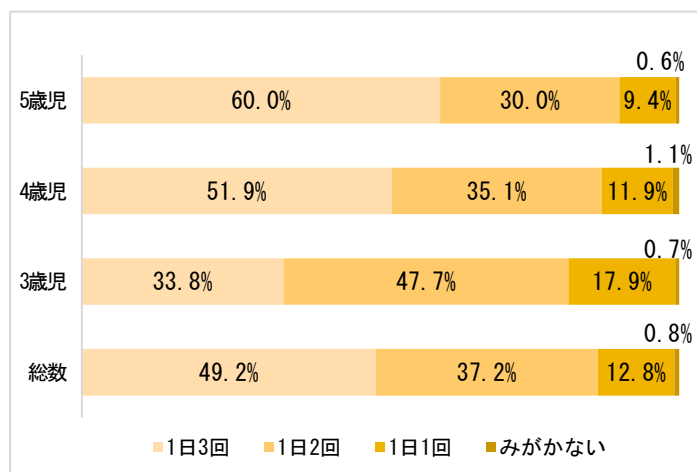
出典：胎内市幼児健診

■ 図9 毎日仕上げみがきをしている幼児の割合



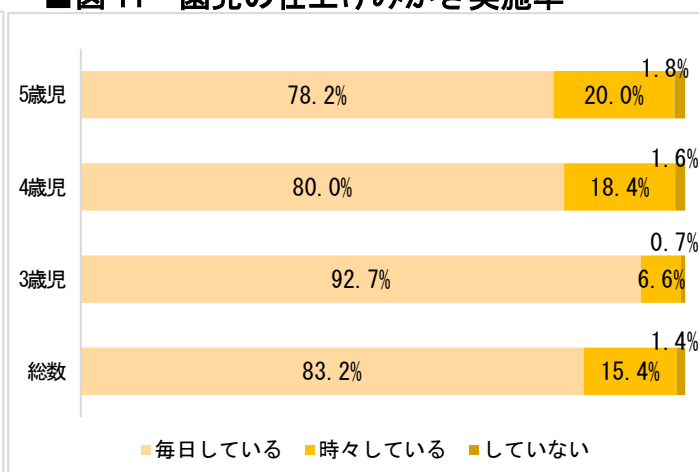
出典：胎内市幼児健診

■ 図 10 園児の歯みがきの回数



出典：令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

■ 図 11 園児の仕上げみがき実施率



出典：令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

《評価》 表 8 第2次歯科保健計画評価

	指標		ベースライン (平成26年度)	目標値	最新値 (令和元年度)	評価
歯 や 口 の 元 気 指 標	重点指標 むし歯のない1歳6カ月児の割合	胎内市	98.8%	98%以上維持	99.4%	A
		新潟県	98.8%	—	99.3%	—
	むし歯のない3歳児の割合	胎内市	85.9%	90%	91.9%	A
		新潟県	84.0%	90%	91.4%	—
	3歳児一人平均むし歯数	胎内市	0.55本	県平均以下	0.20本	A
		新潟県	0.46本	—	0.30本	—
5歳児一人平均むし歯数	胎内市	2.05本	県平均以下	1.41本	A	
	新潟県	1.59本	—	1.13本	—	
フッ素の利用	フッ化物塗布を定期的に受けている3歳児の割合	胎内市	53.8%	増加	51.8%	E
		新潟県	—	—	—	—
	フッ化物洗口を実施している園児・児童・生徒の割合(4~14歳)	胎内市	98.9%	現状維持	98.3%	E
		新潟県	51.4%	—	74.2%	—
セ ル フ ケ ア	毎日仕上げみがきしている3歳児の割合	胎内市	97.7%	現状維持	98.4%	A
		新潟県	—	—	—	—
フ ォ ロ ー ア ッ プ	気軽に相談できる歯科医院がある3歳児の割合	胎内市	68.7%	増加	61.1%	E
		新潟県	—	—	—	—
生 活 習 慣	1日3回以上間食をする1歳6か月児の割合	胎内市	17.2%	減少	15.6%	A
		新潟県	—	—	—	—
	よく噛んで食べている3歳児の割合	胎内市	88.3%	増加	87.6%	E
		新潟県	—	—	—	—

《現状と課題》

1人でむし歯数が多い児がいるため乳歯のむし歯の有病率、1人平均むし歯数とも1歳6か月児以降県平均より高くなる傾向が続いています。(図1、図2)

3歳児以降からさらに県平均より高くなり、5歳児のむし歯有病率、1人平均むし歯数は目標値を達成していますが、県平均に比べ高い傾向が続いています。(図5、図6)

仕上げみがき実施率は3歳児健診では98.4%と目標は達成しましたが、仕上げみがきの習慣がない保護者がおり園児など年齢が上がるにつれて、実施率は下がる傾向にあります。(図9)

1歳児でも未実施の保護者がいる現状から、歯が生え始めた頃からの乳児健診の場で仕上げみがきの必要性を話していく必要があります。

健口胎内フッハッ歯スタンプラリーは定期的なフッ化物塗布の継続を目的に平成25年4月から開始しました。しかし、2歳6か月児、3歳6か月児の歯科健診及びフッ素塗布券使用率が40%前後と低い傾向にあり、3歳児健診のアンケートからもフッ化物を定期的に塗っている割合は約50%となっています。(表6)

フッ化物塗布の継続に向け、2歳6か月児、3歳6か月児の歯科健診及びフッ素塗布券の配布方法を変更するなどの周知を検討する必要があります。

2 学童・生徒

目標 ①正しい知識を身につけ、口の中を見ることができる
 ②むし歯や歯肉炎の予防が実践できる

《主な取組》

◇表9 フッ化物洗口事業実施率

永久歯のむし歯予防のため、保育園・こども園は週2回法、小学校・中学校は週1回法フッ化物洗口を行っています。令和元年度より、「まごころ保育園たいない」が加わり、市内19施設で実施しています。

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
保育園・こども園	96.8%	98.8%	98.3%	97.4%	97.9%
小学校	98.9%	98.3%	98.9%	98.2%	98.3%
中学校	99.4%	99.2%	99.3%	99.3%	98.8%

◇表10 むし歯・歯肉炎予防教室

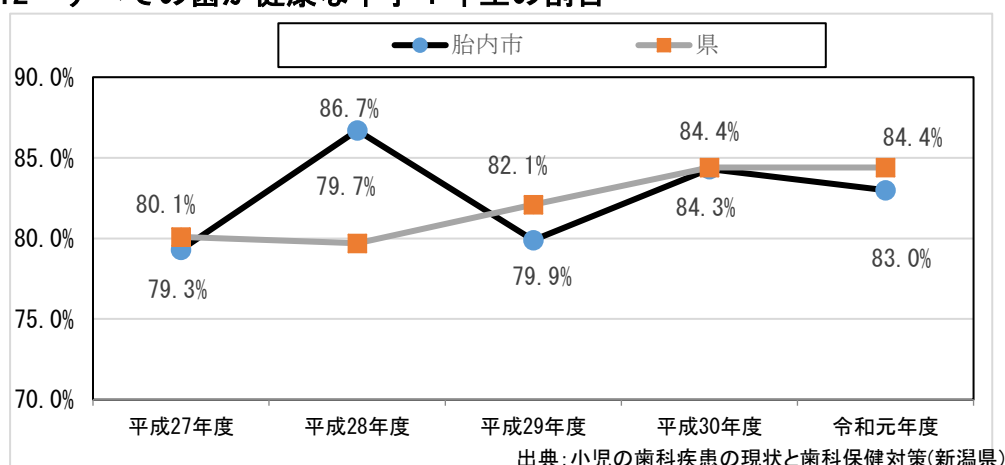
歯科衛生士が各園や小中学校に出向き、歯科保健指導を行います。

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
実施施設数	17施設	17施設	17施設	18施設	18施設
保育園・こども園	655人	668人	680人	689人	625人
小学校	613人	931人	672人	803人	712人
中学校	221人	389人	301人	320人	287人
合計	1,489人	1,988人	1,653人	1,812人	1,624人

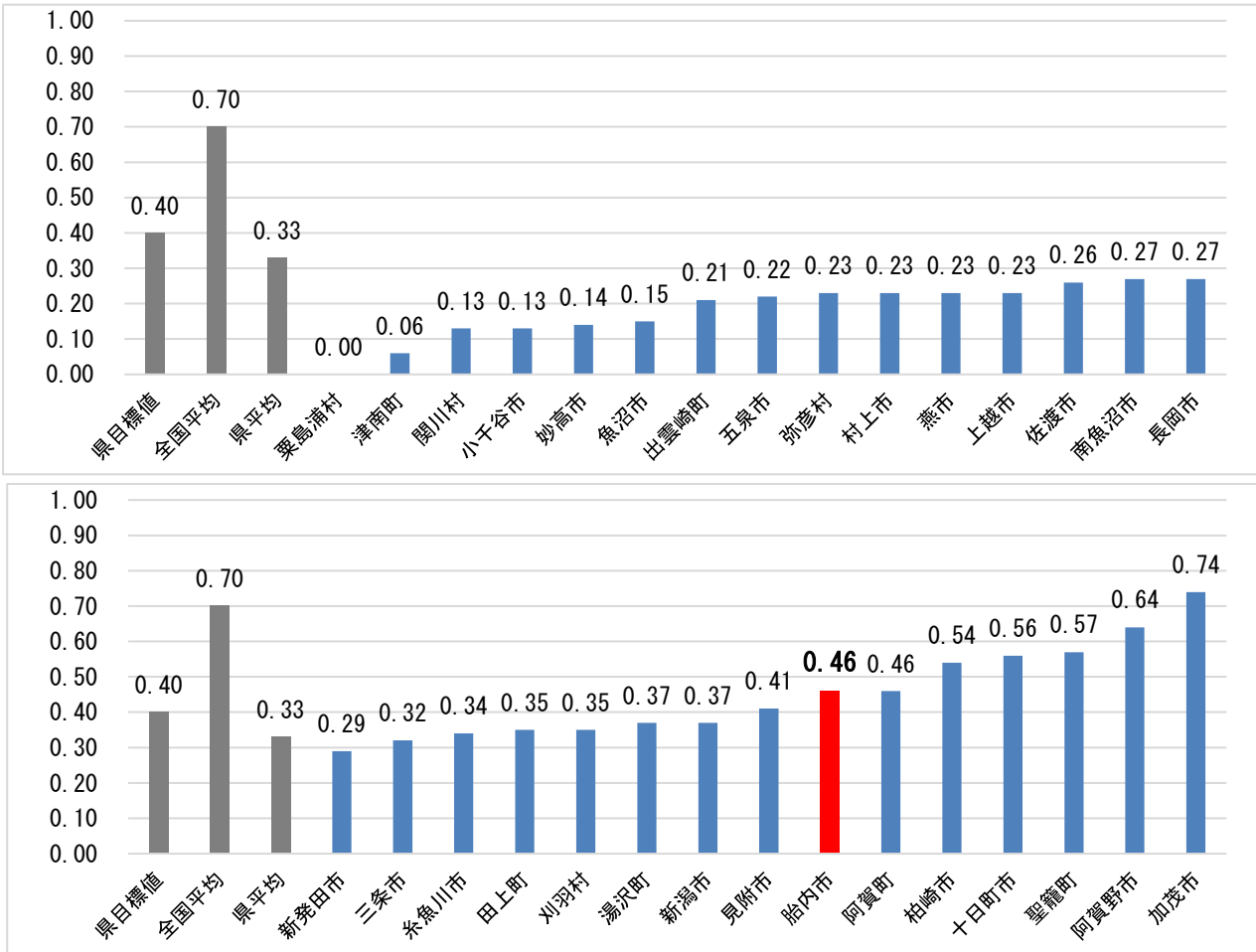
◇啓発活動

園、小中学校の園児、学童、生徒を対象に『歯科保健だより』を配付し、むし歯予防、歯肉炎予防の指導を行っています。

■図12 すべての歯が健康な中学1年生の割合

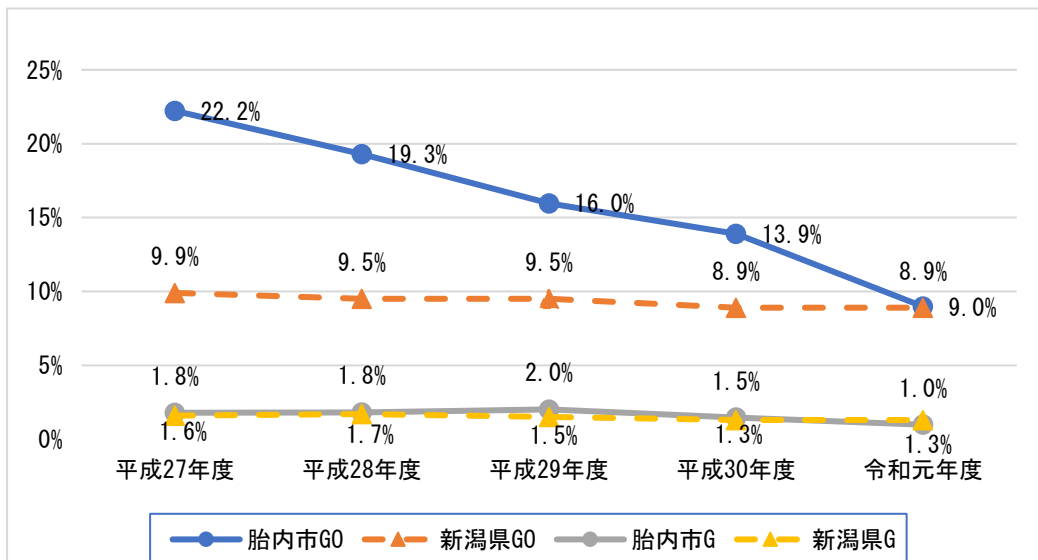


■ 図 13 令和元年度 市町村別 12 歳児一人平均むし歯数(永久歯)の比較



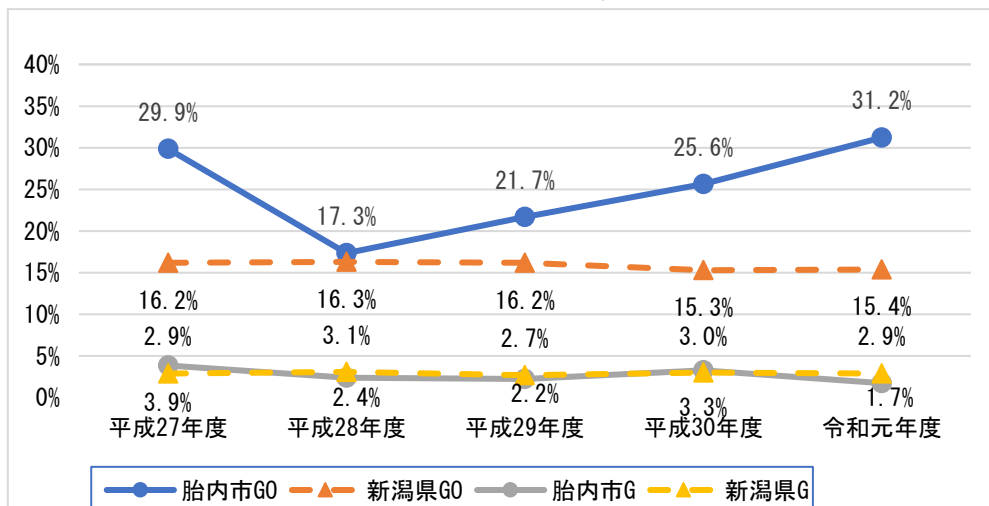
出典: 小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策(新潟県)

■ 図 14 小学生の歯肉炎(G0 または G)の年次推移



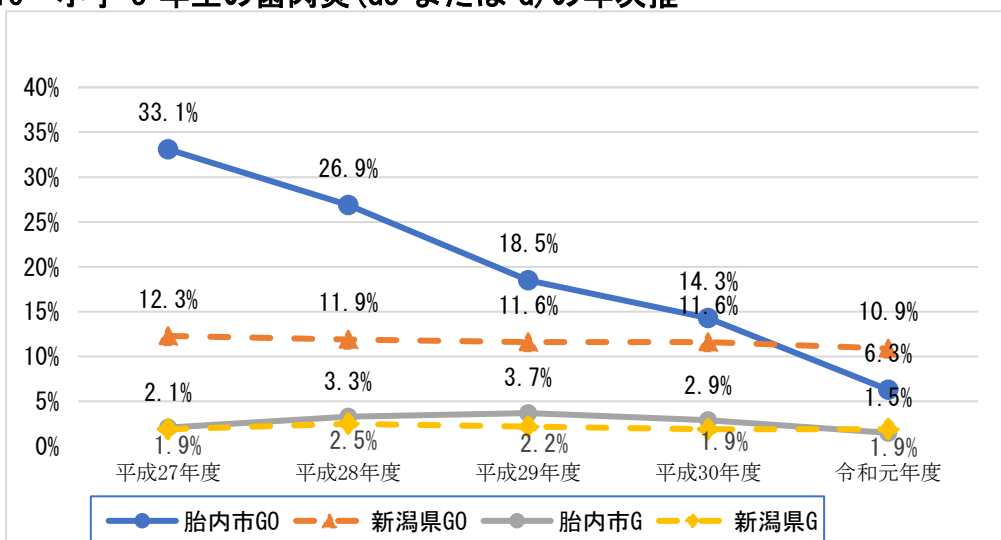
出典: 歯科疾患実態調査(胎内市)

■ 図 15 中学生の歯肉炎(GO または G)の年次推



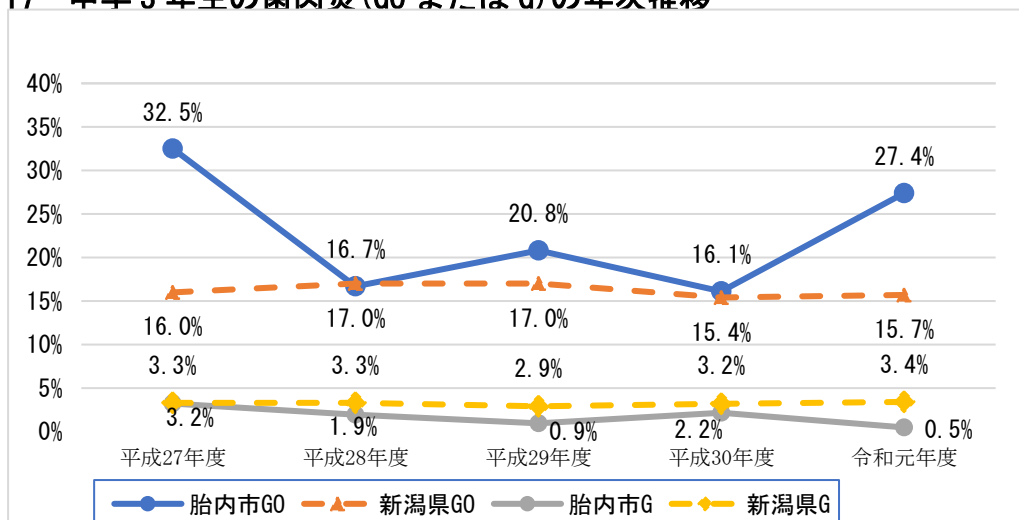
出典：歯科疾患実態調査(胎内市)

■ 図 16 小学5年生の歯肉炎(GO または G)の年次推



出典：歯科疾患実態調査(胎内市)

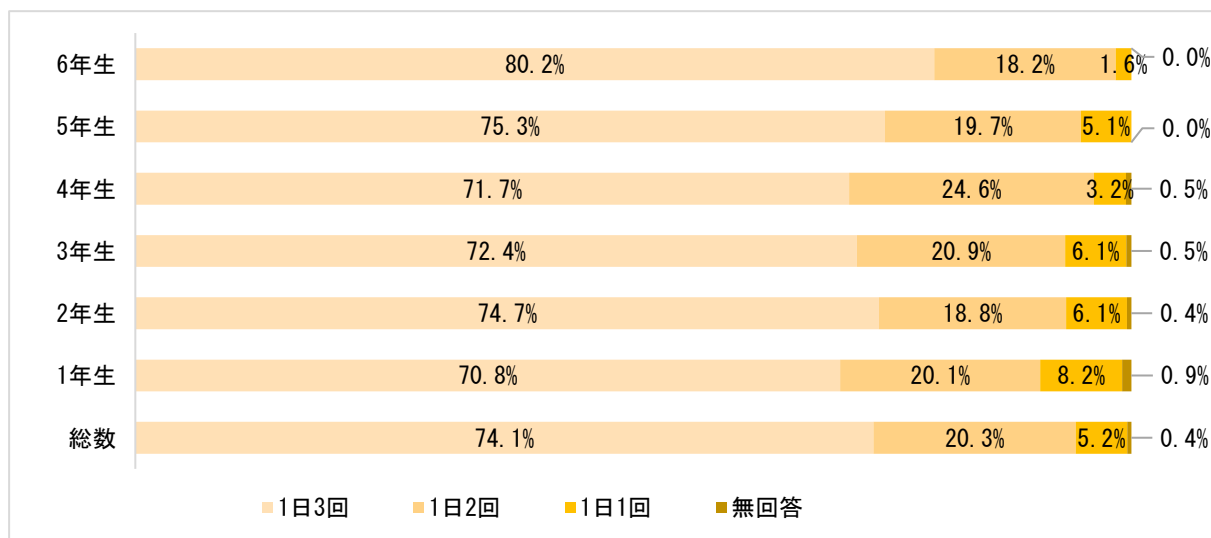
■ 図 17 中学3年生の歯肉炎(GO または G)の年次推移



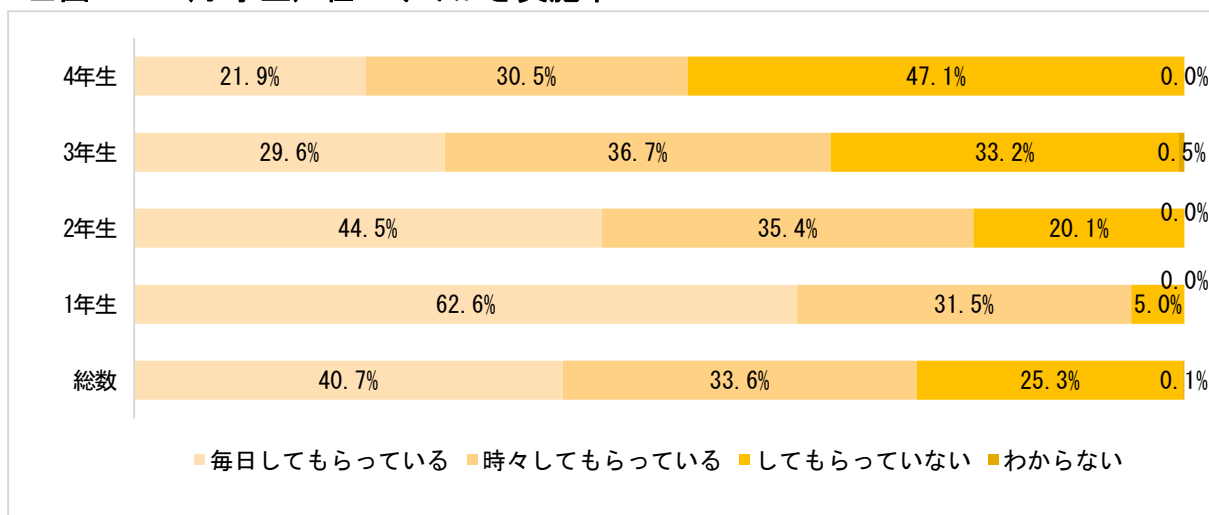
出典：歯科疾患実態調査(胎内市)

GO 者とは・・・歯周疾患要観察者(歯ぐきに軽度の炎症症状があり定期的な観察が必要な者)
 G 者とは・・・歯科医師による精密検査及び歯周治療を要する者

■ 図 18 (小学生) 歯みがきの回数

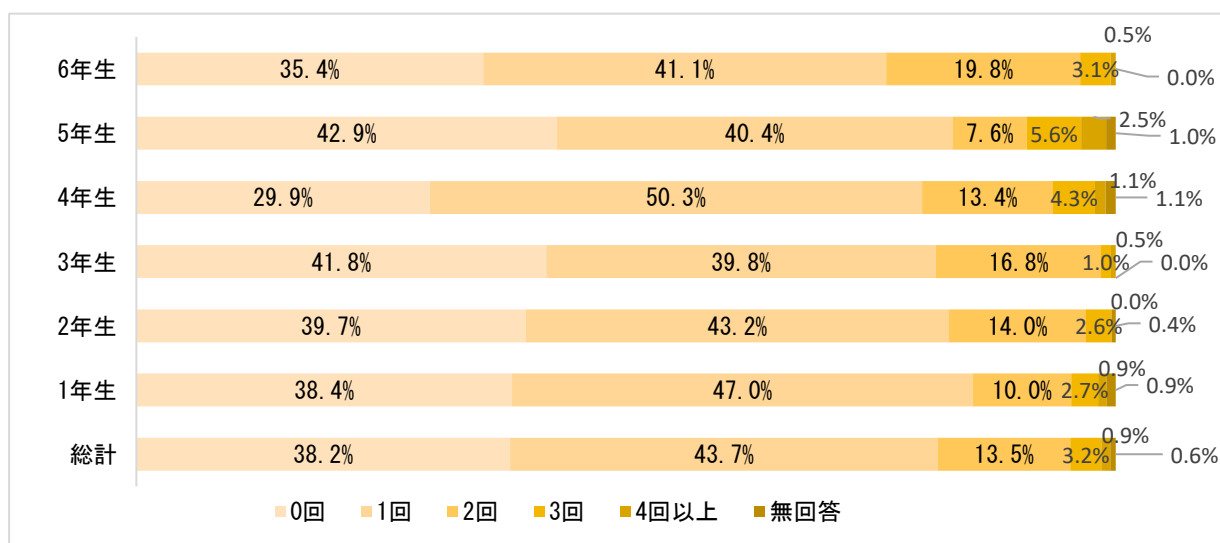


■ 図 19 (小学生) 仕上げみがき実施率 出典:令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)



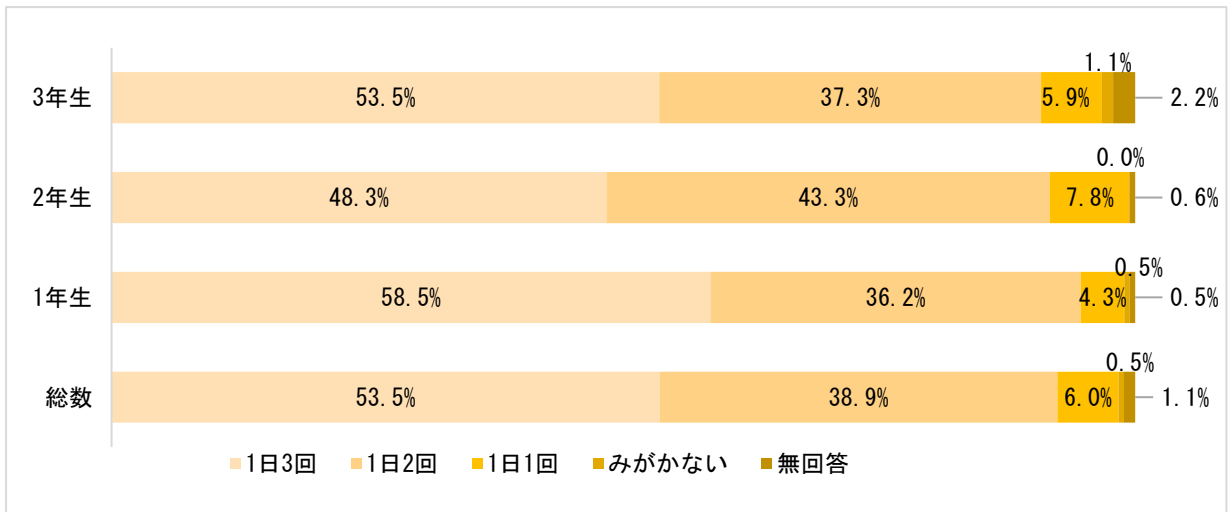
出典:令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

■ 図 20 (小学生) 甘い飲み物を1日に何回飲んでいるか



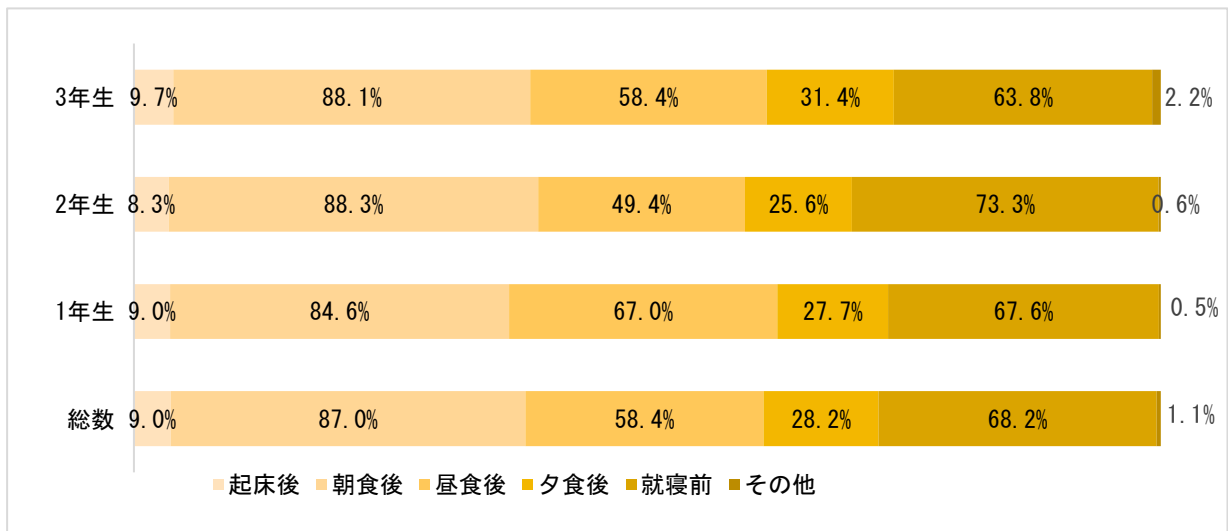
出典:令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

■ 図 21 (中学生) 歯みがきの回数



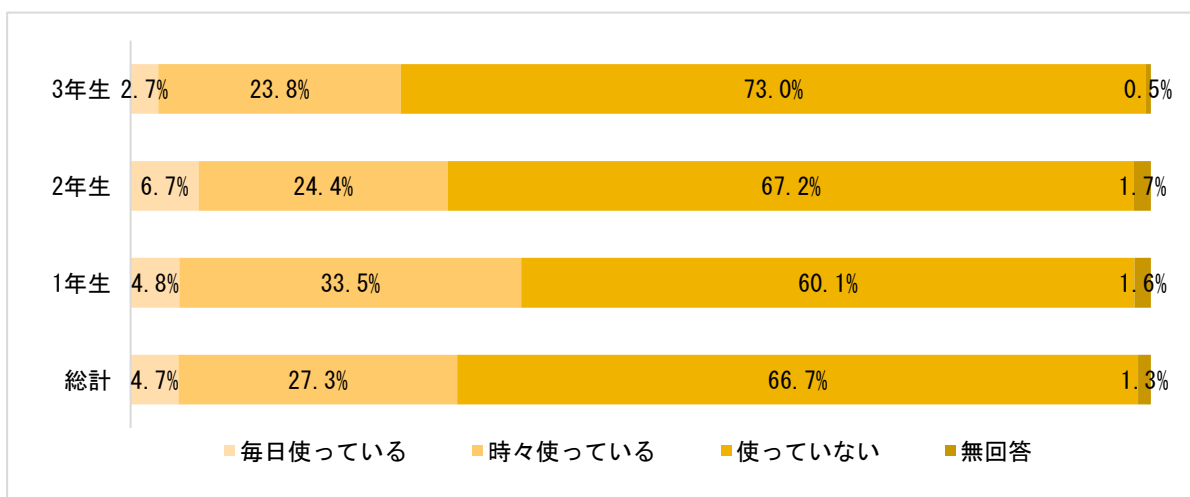
出典: 令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

■ 図 22 (中学生) いつ歯みがきをするか



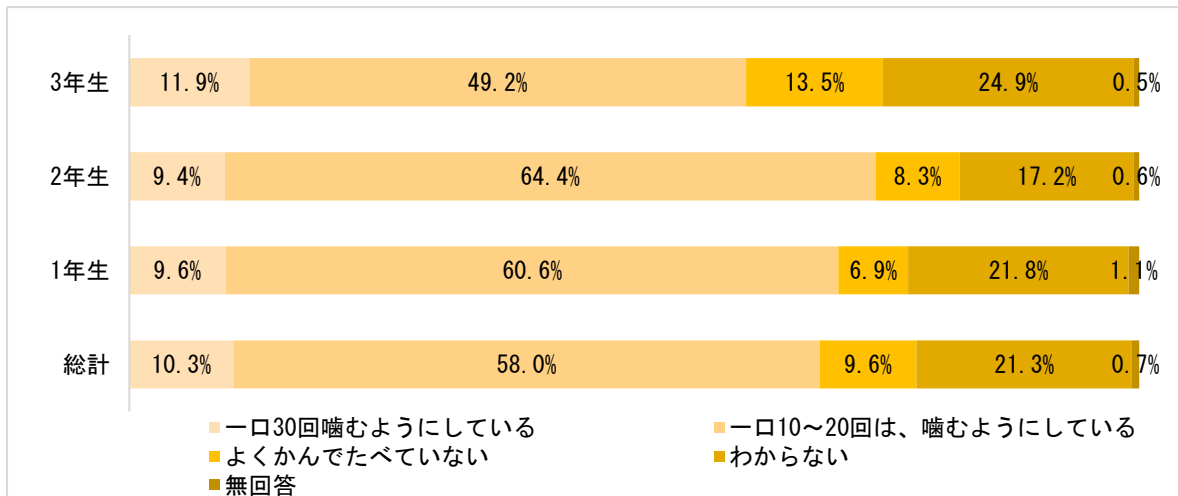
出典: 令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

■ 図 23 (中学生) デンタルフロスを使っているか



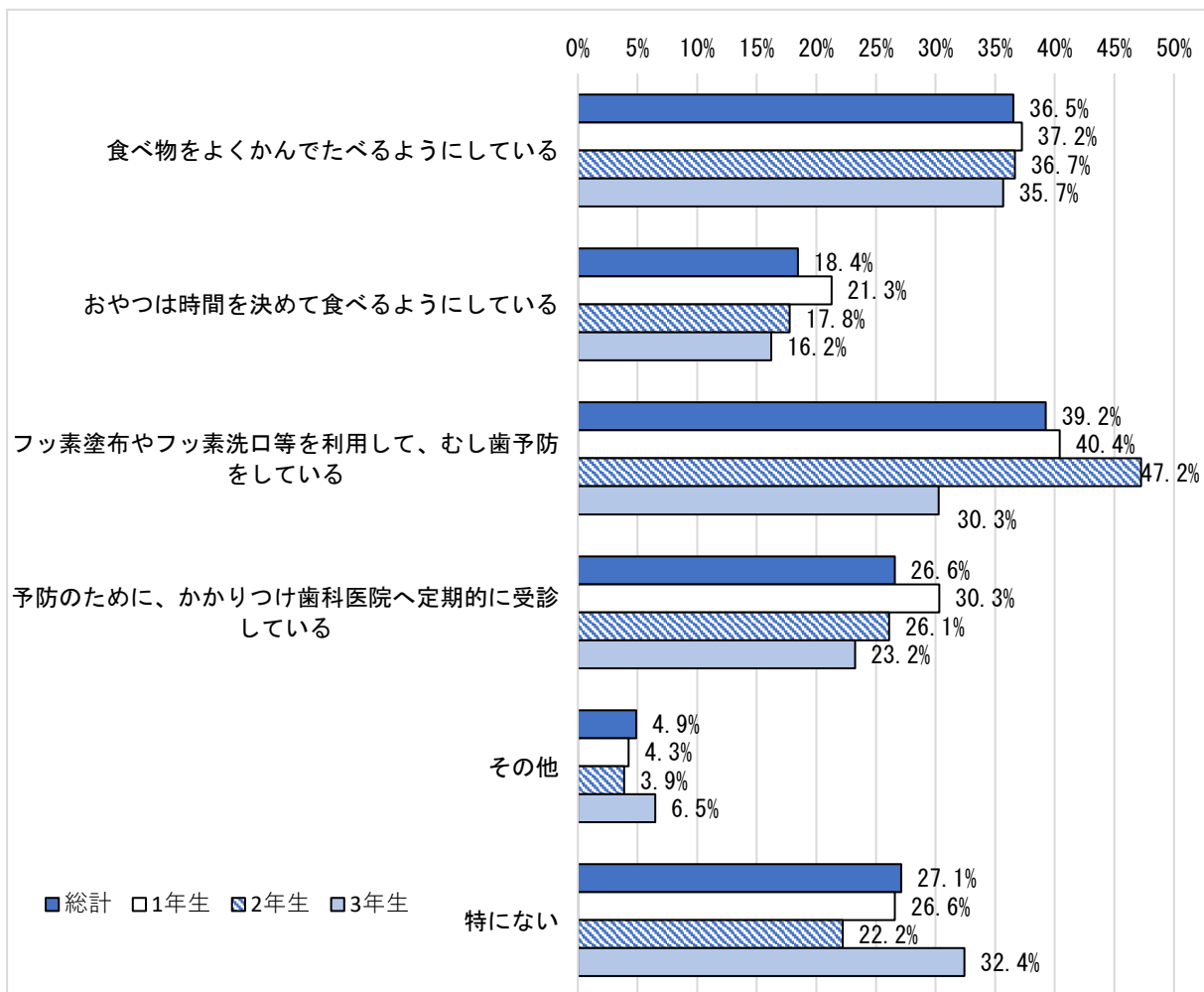
出典: 令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

■図 24 (中学生) よく噛んで食べているか



出典:令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

■図 25 (中学生) 歯や口の健康のために気を付けていることは何ですか



出典:令和2年度 園児・児童・生徒のアンケート(胎内市)

《評価》 表 11 第 2 次歯科保健計画評価

	指標		ベースライン (平成26年度)	目標値	最新値 (令和元年度)	評価
歯や口の元氣指標	重点指標 12歳児一人平均むし歯数	胎内市	0.43本	0.4本以下	0.46本	E
		新潟県	0.48本	0.4本以下	0.33本	—
	すべての歯が健康な中学1年生の割合	胎内市	79.3%	80%以上	83.0%	A
		新潟県	78.3%	80%以上	84.4%	—
	歯周疾患要観察者(GO)又は歯肉炎(G)を有する中学3年生の割合(注)	胎内市	35.7%	16%以下	27.9%	B
		新潟県	22.1%	16%以下	19.0%	—
セルフケア	歯・口腔の状態を定期的に自己観察している中学1年生の割合(週1回以上)	胎内市	49.5%	増加	49.1%	E
		新潟県	—	—	—	—
	デンタルフロスを使用している中学1年生の割合	胎内市	22.4%	増加	38.2%	A
		新潟県	—	—	—	—
	1日3回、食後の歯みがきの習慣がある中学1年生の割合	胎内市	32.9%	増加	58.5%	A
		新潟県	—	—	—	—
フッ素アップ	定期的に歯科医院に受診している中学1年生の割合	胎内市	17.2%	増加	27.8%	A
		新潟県	—	—	—	—
生活習慣	一口30回噛んで食べるよう意識している中学1年生の割合	胎内市	12.5%	増加	9.6%	E
		新潟県	—	—	—	—

《現状と課題》

12歳児一人平均むし歯数は市および県の目標値を達成することができず、新潟県内30市町村中24位と下位に位置しています。すべての歯が健康な中学1年生の割合は改善傾向にあり、目標を達成しましたが、県平均に比べると低い傾向にあります。(図13)

児童、生徒とも歯肉炎は県平均と比べ多い傾向にあります。(図14、図15)特にG0者の割合は県平均に比べ2倍近く高い年度もあり、歯肉炎予防のため歯みがきの正しい知識を身につけ、実践する必要があります。しかし、保育園児や小学生では自宅で歯みがきをしない、中学校では昼休みの歯みがき時間が設けられておらず個人の意識に任せられている施設もあるため、1日3回の歯みがき行動が実施できていない園児、児童や生徒がいます。(図18、図21、図22)

仕上げみがきについては小学校4年生までの実施を推奨していますが、毎日実施する4年生は21.9%となっており、仕上げみがきの必要性を感じていない保護者が多いが推測されます。(図19)

歯科健診でむし歯等の所見になり治療勧告書の対象となっても「乳歯だからむし歯になっても生えかわるから大丈夫だと思っている。歯科受診を子どもがイヤがる、怖がるなどと敬遠し、受診させない。」など毎年、同じ園児、児童、生徒がむし歯を保有している傾向にあり、歯や口に関する健康格差が生じています。

一口30回噛んで食べるよう意識している中学1年生の割合は目標を下回っています。(図24)さらに、口呼吸の児童も増えており、噛むことの大切さを伝えていく必要があります。(図25)

中学校卒業後は、歯科健診を受けたり歯科保健行動について指導を受ける機会も少なくなるため、継続的に取り組めるような指導が必要になります。

3 妊産婦

目標 歯や口の正しいケアとバランス食で、ママと赤ちゃんともに元気に過ごすことができる

《主な取組》

◇表 12 妊産婦歯科健診受診状況

委託歯科医院で歯科健診・歯科保健指導を行う事業。

年度		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
受診率	妊婦	29.9%	32.1%	38.6%	32.3%	39.8%
	産婦	33.3%	31.9%	38.6%	32.1%	15.4%

*平成 27 年から対象者を出産後 1 年未満の産婦に拡大。

◇1 歳児親子歯科健診での保護者の健診 ◇歯科健康教育（乳幼児健診）

■表 13 (妊婦) 歯や口の困りごとの有無

項目	平成 26 年度	令和元年度
困りごとあり	43.5%	41.3%
困りごとなし	56.5%	55.5%
無回答	0.0%	3.2%

■表 14 困りごとの内容

項目	割合
むし歯がある	31.3%
歯がしみる	16.9%
血が出る	10.8%
口臭がある	9.6%
歯並び、噛み合わせ	8.4%
あごの関節が痛い	7.2%
歯が痛い	2.4%
その他	13.4%

■表 15 (妊婦) 歯や口の困りごとで受診はしたか

項目	令和元年度
受診した	15.6%
受診しない	82.8%
無回答	1.6%

■ 受診しない理由は

- ・つわりがひどくて行けない
- ・時間がない
- ・忙しい など

出典：妊娠届出時アンケート(胎内市) 調査期間：令和 1 年 11 月～令和 2 年 12 月

■表 16 (産婦) 歯や口の困りごとの有無

項目	令和元年度
困りごとあり	67.1%
困りごとなし	32.9%

■表 17 困りごとの内容

項目	割合
むし歯がある	29.9%
血が出る	7.8%
歯茎が腫れている	3.9%
歯が痛い	2.6%
歯がしみる	19.5%
口臭がある	7.8%
歯茎がむずがゆい	1.3%
歯並び、噛み合わせ	23.4%
あごの関節が痛い	3.8%
その他	0.0%

■表 18 (産婦) 歯や口の困りごとで受診はしたか

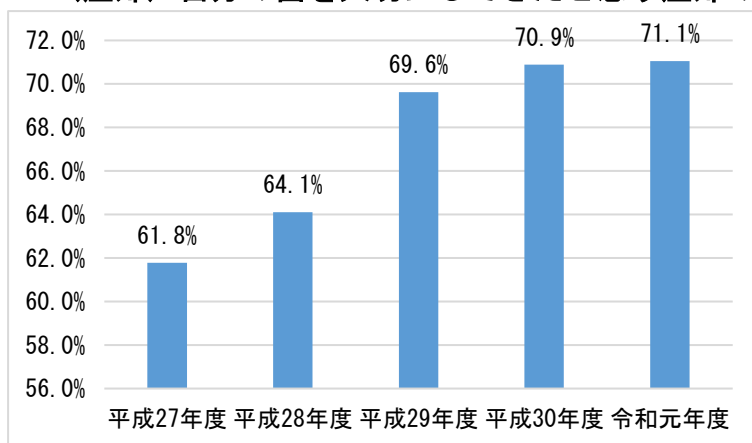
項目	令和元年度
受診した	48.9%
受診しない	48.9%
無回答	2.2%

■ 受診しない理由は

- ・時間がない
- ・忙しい
- ・子ども連れていきにくいなど

出典：1 歳児親子歯科健診(胎内市) 調査期間：令和 1 年 11 月～令和 2 年 11 月

■ 図 26 (産婦) 自分の歯を大切にしてきたと思う産婦の割合



出典:1 歳児親子歯科健診(胎内市)

《評価》 表 19 第 2 次歯科保健計画評価

	指標		ベースライン (平成26年度)	目標値	最新値 (令和元年度)	評価	
歯元 や口 の 指標	重点指標 歯や口の悩みごとがある 産婦の割合	胎内市	34.8%	減少	67.1%	E	
		新潟県	—	—	—	—	
セルフ ケア	自分の歯を大切にしてく た産婦の割合	胎内市	62.9%	増加	67.4%	A	
		新潟県	—	—	—	—	
フ ォ ー ア ッ プ	妊産婦歯科健診受診率 注) H26 年度は妊婦のみ対象に 事業開始。H27 年度より妊産婦に 対象を拡大	胎内市	妊婦	33.7%	増加	39.8%	A
			産婦	—	—	15.4%	—
		新潟県	妊婦	—	—	—	—
			産婦	—	—	—	—

《現状と課題》

歯や口の悩み事がある産婦の割合は前回値より大きく上回っています。(表 13) また妊娠期の歯や口の悩み事がある妊婦の割合は 41.3%となっています。(表 16) 悩み事があり受診した妊婦の割合は 15.6%、産婦の割合は 48.9%となっています。(表 15、表 18) 妊娠期はつわりの時期と重なり受診できなかつたと答える妊婦も多いですが、歯周病のリスクが高まり、早産や低体重児出産のリスクを高めるといわれており、安定期に入った時期の歯科医院の受診が必要です。また、産婦は「時間がない」「忙しい」「子ども連れていきにくい」などを理由に受診できなかった方もいました。出産後は子育てに忙しく、受診できない状況が考えられますので、妊娠の安定期に受診することが必要です。

さらに、育児中の母が歯科医院に受診しやすいよう、歯科医院と連携した環境づくりやファミリーサポートセンターなどを紹介していきたいと思います。

4 成人・高齢者

目標 目指せ 6024・8020！自分の歯の健康を維持できる

《主な取組》

◇表 20 成人歯科健診受診状況

委託歯科医院で歯科健診・歯科保健指導を行う事業。

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
受診者数	422 人	372 人	456 人	382 人	396 人
受診率	14.9%	13.4%	15.4%	13.5%	16.5%

* 対象年齢を平成 30 年度までは 40・45・50・55・60・70 歳としていたが、令和元年度から 40・50・60・70・76・80 歳に変更した。

◇表 21 地区等での健康教育

保健師や歯科衛生士が地区に出向き、歯科保健指導を行う事業。

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和年度
地区数	2 地区	6 地区	10 地区	12 地区	11 地区
参加人数(人)	24 人	86 人	109 人	144 人	141 人

◇表 22 通所型サービス C 事業「すこやか教室」

要介護ハイリスク高齢者及び要支援者を対象とした運動、栄養、口腔のお手入れを学べる介護予防教室です。

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
回数	48 回	72 回	96 回	96 回	96 回
参加人数	869 人	1,046 人	1,093 人	846 人	1,049 人

出典：福祉介護課 地域包括支援センターみらい

◇表 23 一般介護予防教室「うさぎの会」

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
回数	24 回	24 回	48 回	48 回	44 回
参加人数	1,001 人	1,249 人	1,403 人	1,320 人	1,247 人

出典：福祉介護課 地域包括支援センターみらい

◇表 24 介護予防教室卒業生等の会「ときの会」においてお口の体操を実施

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
回数	22 回	23 回	23 回	22 回	18 回
参加人数	330 人	479 人	403 人	295 人	241 人

出典：福祉介護課 地域包括支援センターみらい

◇表 25 介護予防リーダーの研修の場「スマイル体操の会」で口腔機能向上勉強会の開催(1回)

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
回数	8 回	8 回	8 回	7 回	6 回
参加人数	165 人	151 人	180 人	174 人	83 人

出典：福祉介護課 地域包括支援センターみらい

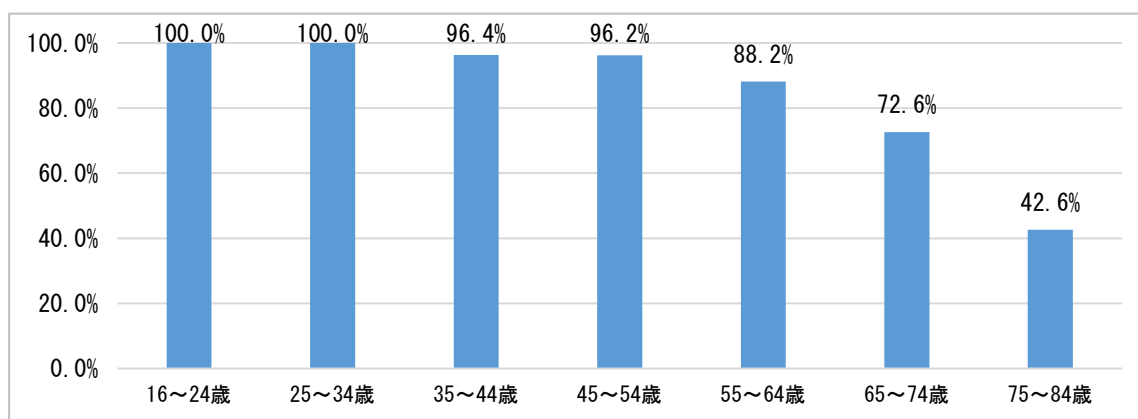
◇口腔ケア健康教育の実施

◇公会堂などで行う地域で行う介護予防教室の開催

◇歯科健康教育（特定保健指導、介護予防事業、市内各地区にて健康教育）

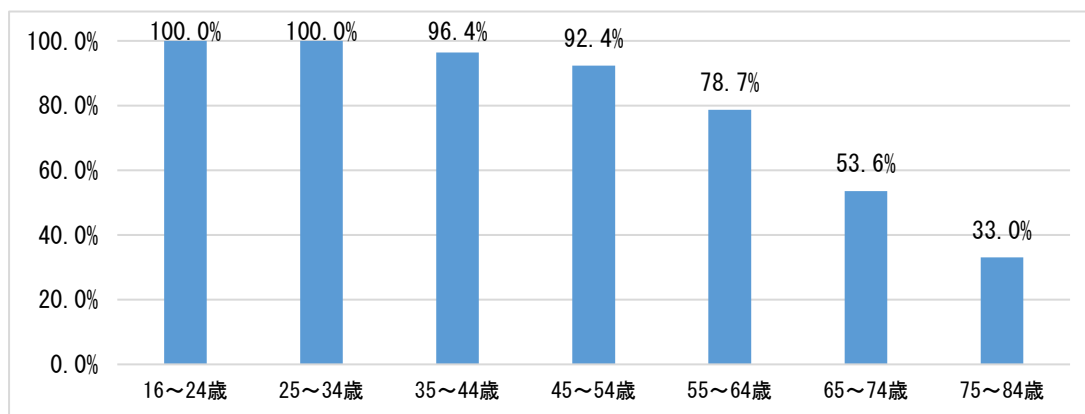
◇普及啓発（健康イベントでの歯科保健指導、職域連携事業、いきいき人生歯のコンクール）

■図 27 8020達成者（自分の歯を20本以上有している人の割合）



出典：令和元年度 健康づくりに関する実態調査(胎内市)

■図 28 自分の歯を24本以上有している人の割合



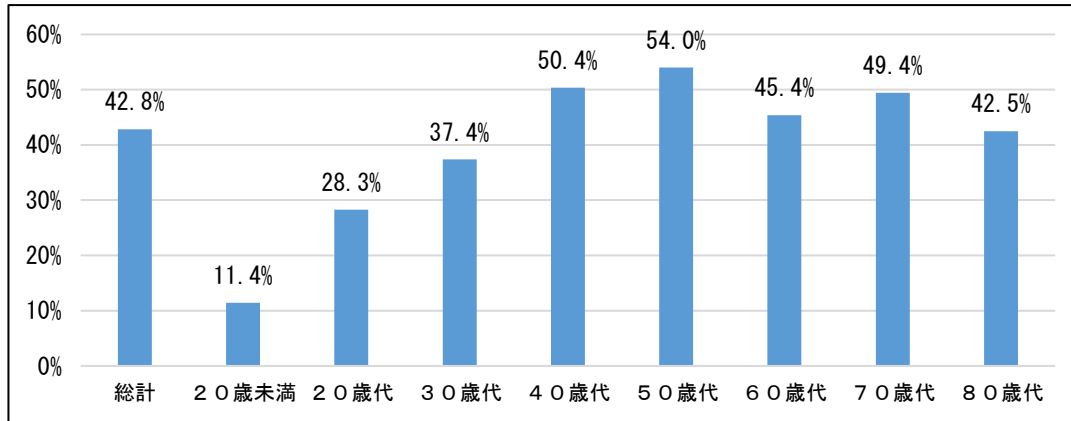
■表 26 一人平均現在歯数（本）

出典：令和元年度 健康づくりに関する実態調査(胎内市)

16~24 歳	29.9
25~34 歳	28.5
35~44 歳	29.0
45~54 歳	28.3
55~64 歳	26.1
65~74 歳	21.2
75~84 歳	15.0
全体	25.1

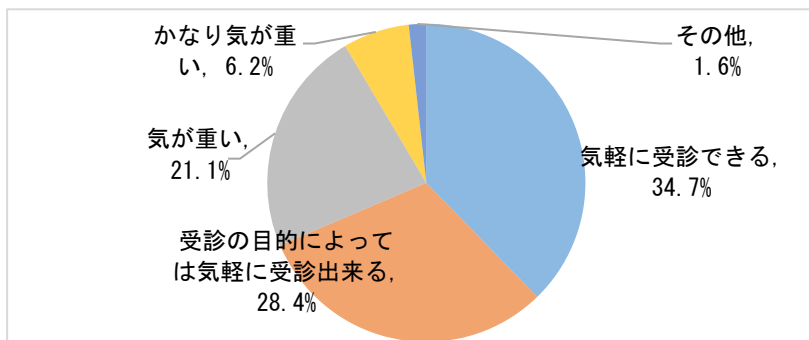
出典：令和元年度 健康づくりに関する実態調査(胎内市)

■ 図 29 歯間部清掃用具を使用している人の割合



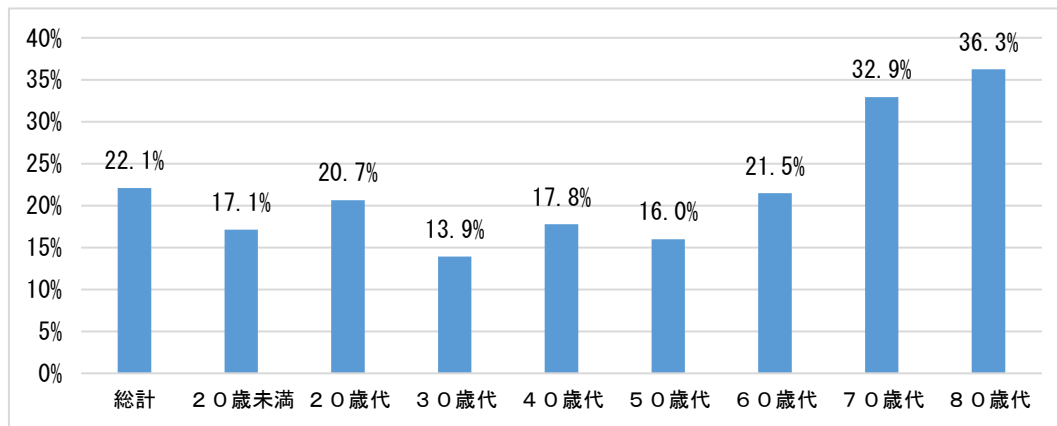
出典:令和元年度 健康づくりに関する実態調査(胎内市)

■ 図 30 歯科医院を受診する際の気持ちは



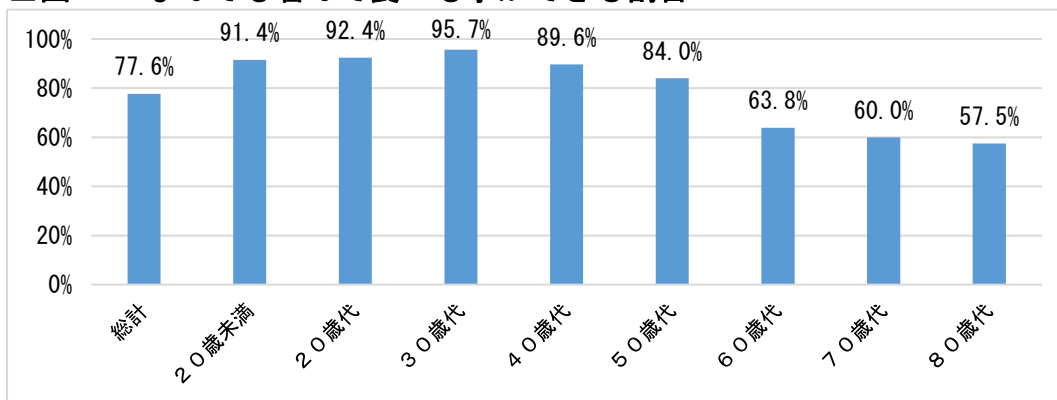
出典:令和元年度 健康づくりに関する実態調査(胎内市)

■ 図 31 1口30回よく噛んで食べるよう意識しているか



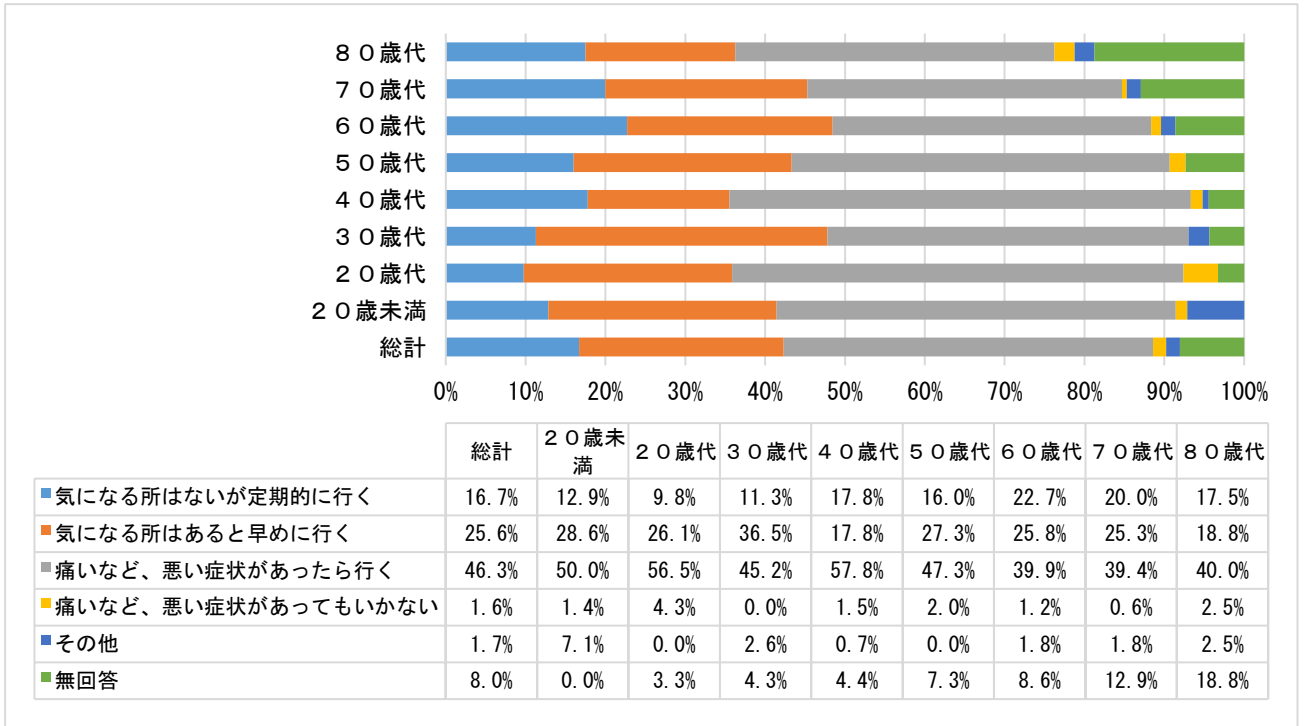
出典:令和元年度 健康づくりに関する実態調査(胎内市)

■ 図 32 なんでも噛んで食べる事ができる割合



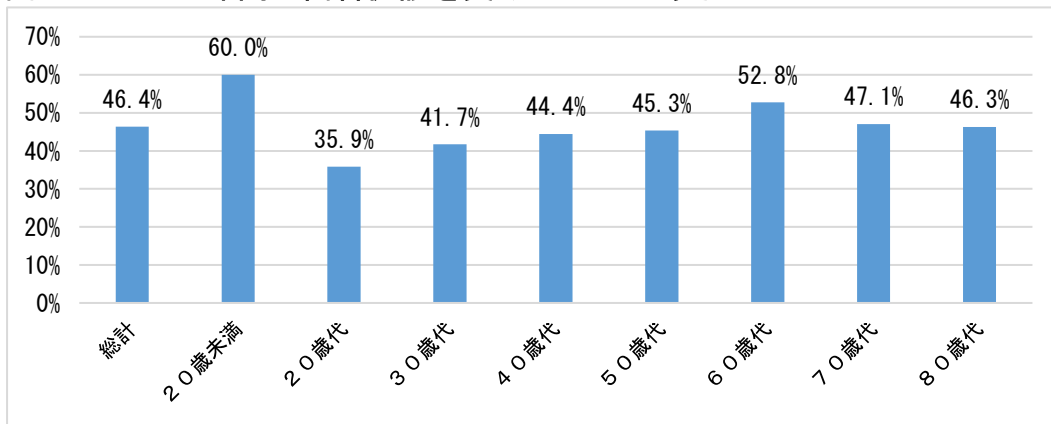
出典:令和元年度 健康づくりに関する実態調査(胎内市)

■ 図 33 歯科医院にはどのような場合に行くか



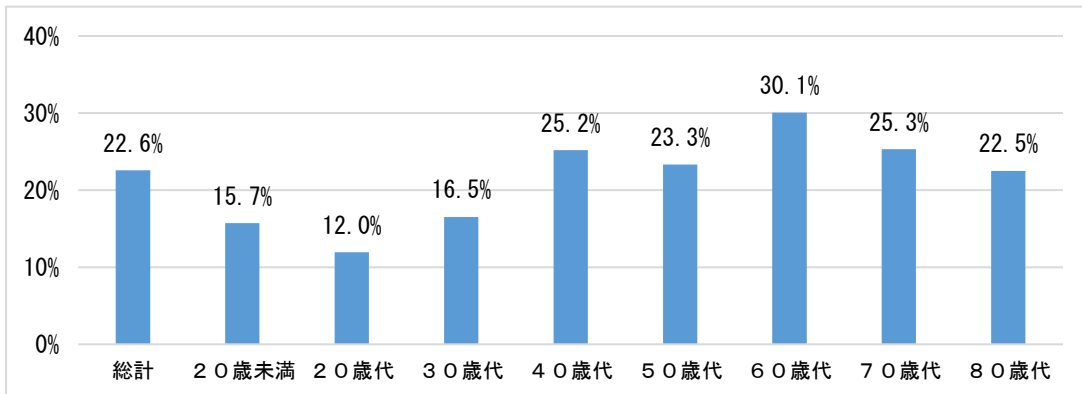
出典：令和元年度 健康づくりに関する実態調査（胎内市）

■ 図 34 この1年間に歯科健診を受けたことがあるか



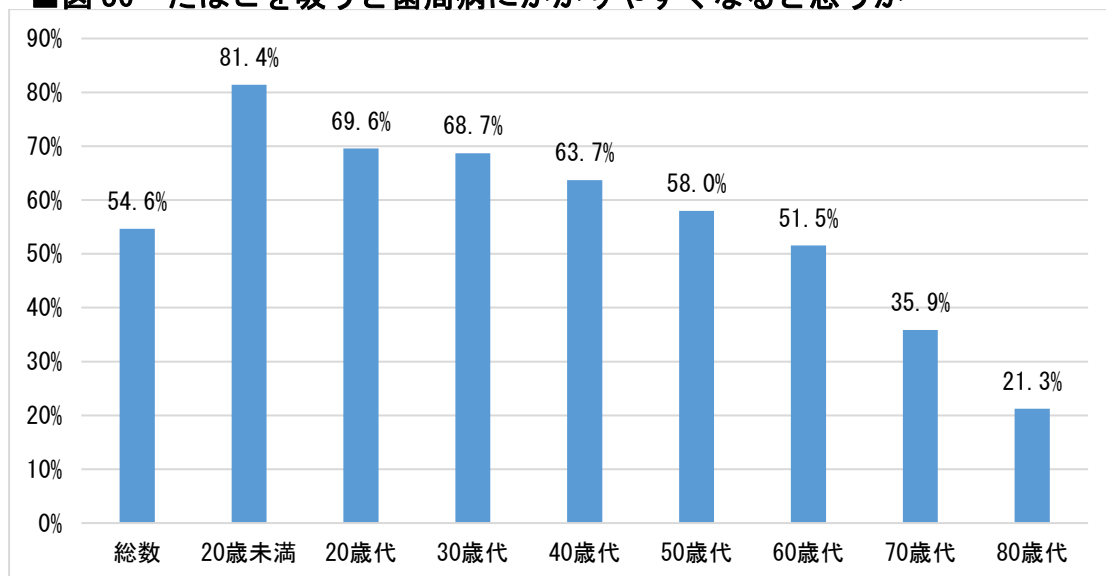
出典：令和元年度 健康づくりに関する実態調査（胎内市）

■ 図 35 歯石の除去や歯面の清掃の為に定期的に歯科医院に行っているか



出典：令和元年度 健康づくりに関する実態調査（胎内市）

■ 図 36 たばこを吸うと歯周病にかかりやすくなると思うか



《評価》 表 26 第 2 次歯科保健計画評価

	指標		ベースライン (平成26年度)	目標値	最新値 (令和元年度)	評価
歯や口の元氣指標	重点指標 60歳(55~64歳)で24本以上の歯を有する人の割合	胎内市	74.1%	75.0%以上	78.7%	A
		新潟県	65.0%	70.0%	66.2%	—
	70歳(65~74歳)で20本以上の歯を有する人の割合	胎内市	65.5%	増加	72.6%	A
		新潟県	54.4%	60.0%	62.3%	—
	80歳(75~84歳)で20本以上の歯を有する人の割合	胎内市	36.2%	40.0%以上	42.6%	A
		新潟県	29.3%	40.0%	36.6%	—
歯や口腔の悩み事がない人の割合	胎内市	35.5%	60.0%以上	23.2%	E	
	新潟県	54.9%	(参考)60.0% (10歳以上)	—	—	
口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない人の割合	胎内市	74.3%	85.0%以上	71.9%	E	
	新潟県	73.0%	(参考)85.0% (10歳以上)	—	—	
フッ素の利用	フッ素による虫歯予防の有効性を理解している人の割合	胎内市	50.1%	増加	—	—
		新潟県	44.6%	参考値	—	—
セルフケア	歯間部清掃用具を使用している人の割合	胎内市	36.7%	45.0%以上	42.8%	B
		新潟県	32.3%	45.0%※5	—	—
	歯・口腔の状態を定期的に自己観察している人の割合(週1回以上)	胎内市	30.8%	増加	46.6%	A
		新潟県	27.5%	参考値	—	—

《評価》 表 27 第 2 次歯科保健計画評価

	指標		ベースライン (平成26年度)	目標値	最新値 (令和元年度)	評価
フォローアップ	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	胎内市	18.1%	20.0%以上	22.6%	A
		新潟県	13.1%	25.0%	(参考)25.8% (15歳以上)	—
	歯科医院にて歯科保健指導を受けたことがある人の割合(歯みがき)	胎内市	65.8%	増加	52.1%	E
		新潟県	60.1%	(参考)60.0% (1歳以上)	—	—
	歯科医院にて歯科保健指導を受けたことがある人の割合(歯間部清掃用具)	胎内市	57.2%	増加	46.6%	E
		新潟県	41.7%	(参考)40.0% (1歳以上)	—	—
	歯科医院にて歯科保健指導を受けたことがある人の割合(フッ化物配合歯みがき剤)	胎内市	28.0%	40.0%以上	29.7%	C
新潟県		22.5%	(参考)40.0% (1歳以上)	—	—	
生活習慣	1口30回噛んで食べられると認識している人の割合	胎内市	23.8%	30.0%以上	22.1%	E
		新潟県	19.9%	30.0%	—	—
	なんでも噛んで食べられると認識している人の割合(40歳以上)	胎内市	71.2%	78.0%以上	71.5%	D
		新潟県	70.2%	78.0%	—	—
	食事を2人以上で楽しく30分以上かけて食べている人の割合	胎内市	51.2%	増加	52.3%	A
		新潟県	—	—	—	—
	明るい胎内市になるには、一人ひとりの元気が大切と思う人の割合	胎内市	91.4%	増加	88.4%	E
		新潟県	—	—	—	—

《現状と課題》

60歳で自分の歯を24本以上の歯を有している割合、70歳で20本以上の歯を有している割合、80歳で20本以上の歯を有している割合とも目標を達成し、県平均よりも高い傾向にあります。(図27、図28)

歯や口腔の悩み事がない人の割合と口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない人の割合については目標を達成することができませんでした。歯科医院に定期的に受診している者の割合は22.6%と新潟県に比べ、低い傾向が続いています。(図35)

歯科受診に対して、「悪いところがあったら受診する」「悪いところがあっても行かない」という者の割合が半数を超えており、症状が出る前に定期的に受診する大切さを周知していく必要があります。(図33)

この1年間に歯科健診を受けたことがある割合は46.4%と2人に1人の割合になっています。(図34)特に20歳代は歯科健診を受けた割合が低く、歯科医院には「痛いなど悪いところがあったら受診する」と答えた方がその他の年代より高い傾向にありました。

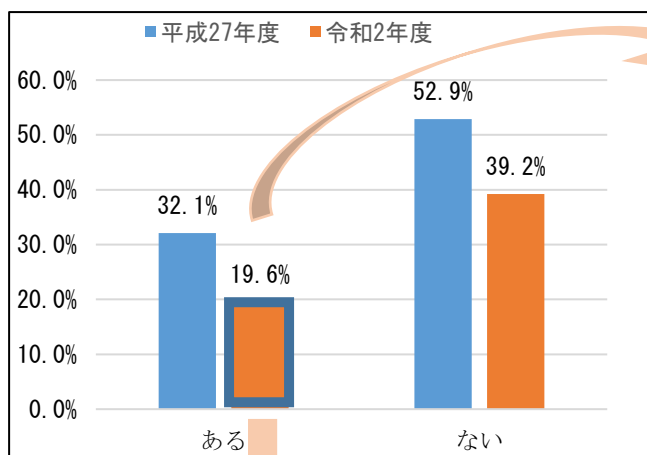
50歳代から加齢に伴い、噛む力、飲み込む機能の低下が認められるようになり、なんでも噛んで食べる事ができる割合が低くなりはじめ、84.0%となっています。さらに、60歳代では63.8%とさらに低くなり、低栄養、誤嚥の危険が高まります。(図32)

口腔に関する軽微な衰え「オーラルフレイル」を早期に発見し、口腔機能低下を予防し、食べる機能心身機能の維持向上を図る取り組みを今後も継続していく必要があります。

高齢期では歯周病の進行により歯肉が退縮し、歯根面が露出したり、「しっかりケアしよう」と意識するあまり、ブラッシングの際に力を入れすぎてしまい『オーバーブラッシング(力が強すぎる歯みがき)』になり『歯ぐきの損傷』『歯ぐきの下がり』を引き起こします。歯根面はむし歯になりやすく、『こんめん根面う蝕しよく』につながることもあります。

たばこと歯周病の関係については、54.6%、半分の方が歯周病にかかりやすいと理解しています。(図36) 今後は全身の健康との関連性について普及啓発の必要性があります。

■ 図 39 介護が必要な状態になってから、歯に痛みやかめれないなどの理由で歯の治療を受けたいと思ったことはあるか



■ 表 28 受診したい思いがある 41 人 (19.6%) のうち実際に歯科治療を受けたか

	受けた	受けなかった
人数	33 人	8 人

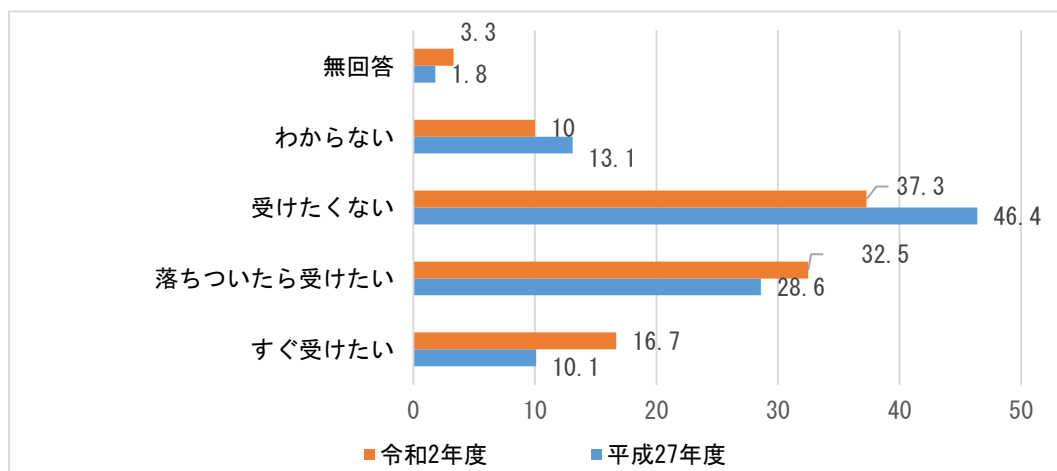
■ 受診しない理由は

- ・通院困難 2 人
- ・我慢できる・あきらめ 5 人

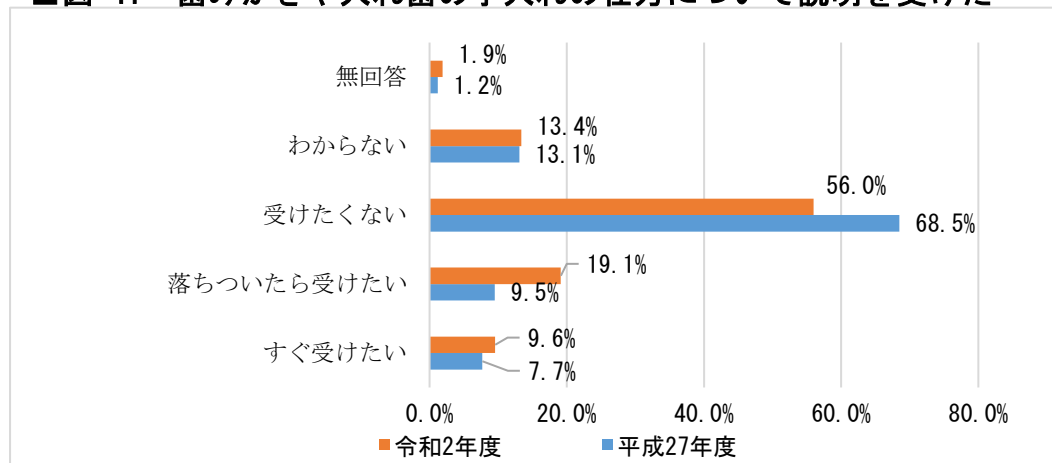
■ 受診したい思いがある 41 人 (19.6%) の内容は

- ・歯痛・知覚過敏 8 人
- ・かぶせた銀歯やつめものがとれた、壊れた 9 人
- ・歯ぐきの発赤・腫脹 3 人
- ・義歯が合わない 14 人
- ・義歯が壊れた 5 人
- ・物がはさまる 3 人 など

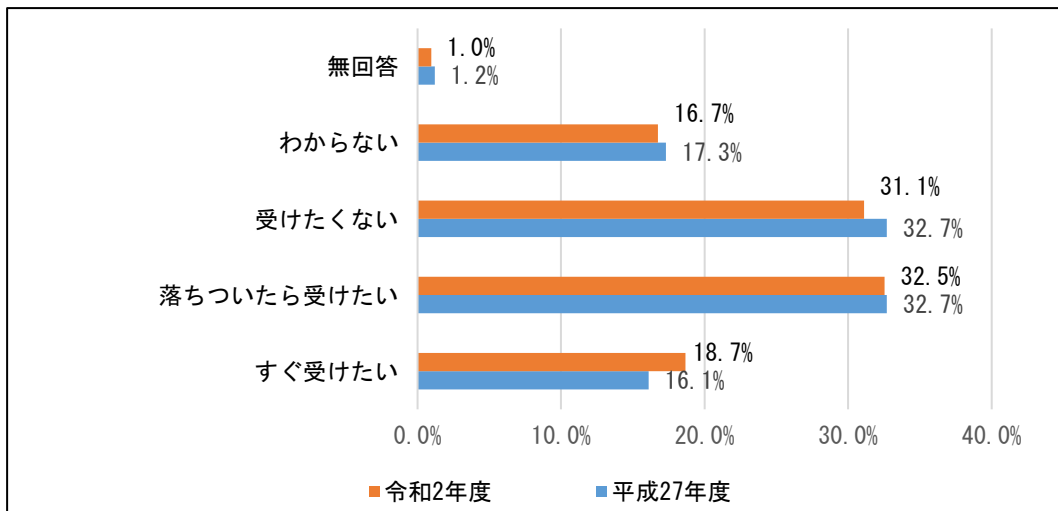
■ 図 40 治療が必要な時に往診を受けたい



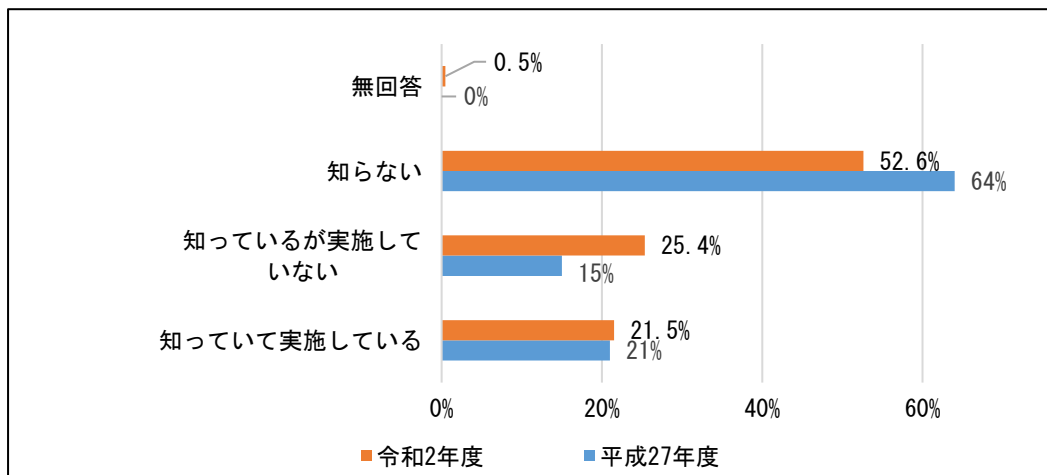
■ 図 41 歯みがきや入れ歯の手入れの仕方について説明を受けた



■図 42 お口のリハビリを受けたいか



■図 43 自分でできるお口のリハビリとしてお口の体操があることを知っているか



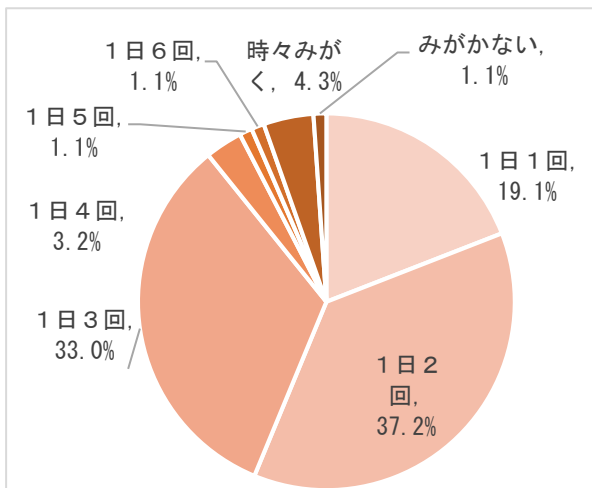
障害者施設利用者歯科保健調査のまとめ

調査日;令和2年9月23日~10月30日 調査方法;本人、家族または施設職員が記入
対象施設及び回答者数;

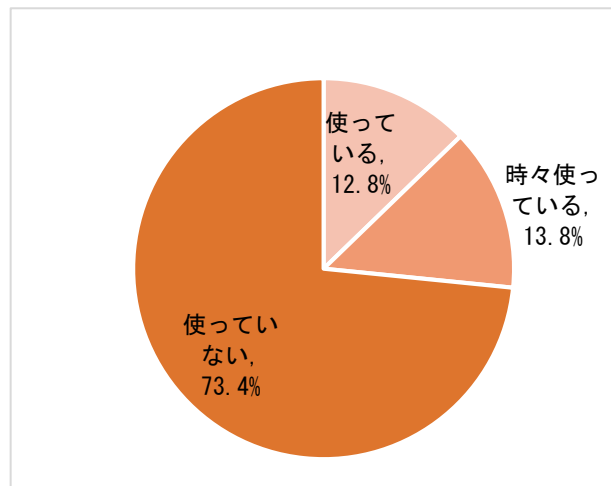
障害者支援施設利用者(胎内市在住) 94名

- ・指定障害福祉サービス事業所『こぼと作業所』 36名
- ・指定障害福祉サービス事業所『虹の家』 28名
- ・指定障害福祉サービス事業所『ハートワーク高浜』 13名
- ・地域生活支援センター『ごっちゃん』 2名
- ・指定障害福祉サービス事業所『じよぶ倶楽部』 30名

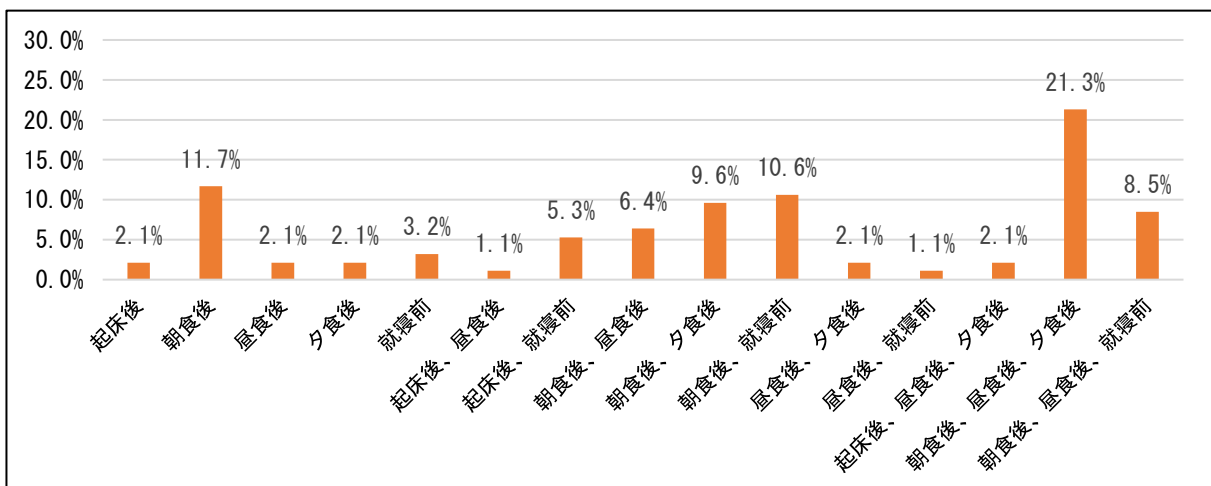
■図44 1日に何回歯みがきをするか



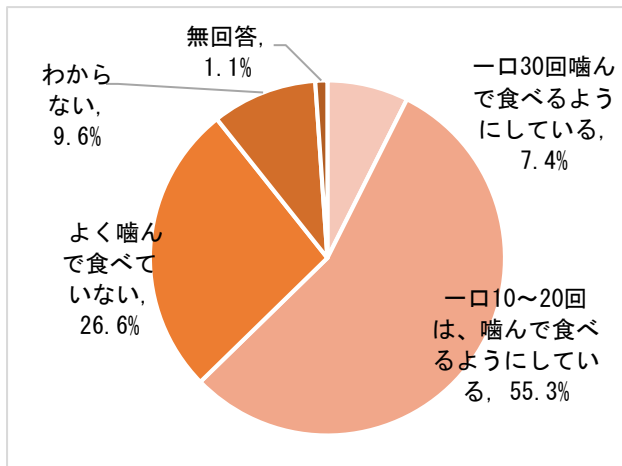
■図45 デンタルフロスを使っているか



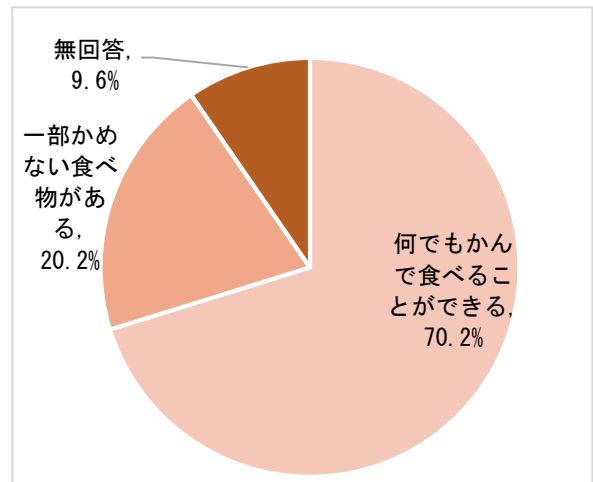
■図46 いつ歯みがきをするか



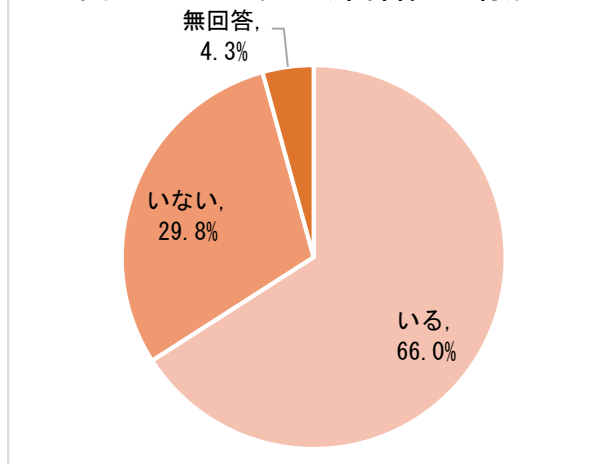
■ 図 47 よく噛んで食べるか



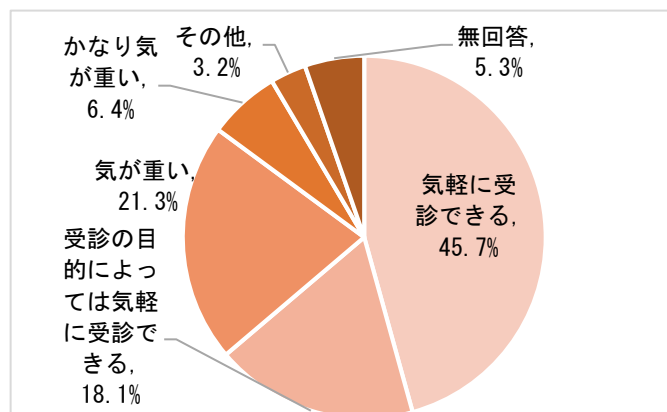
■ 図 48 噛んでいる時の状態は



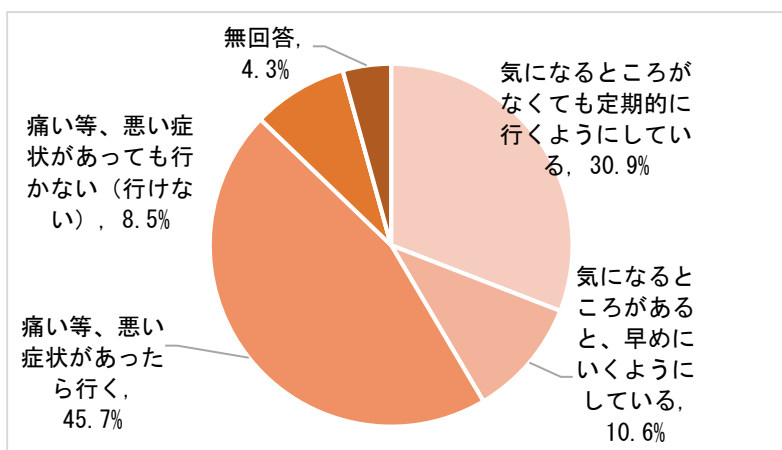
■ 図 49 かかりつけ歯科医の有無



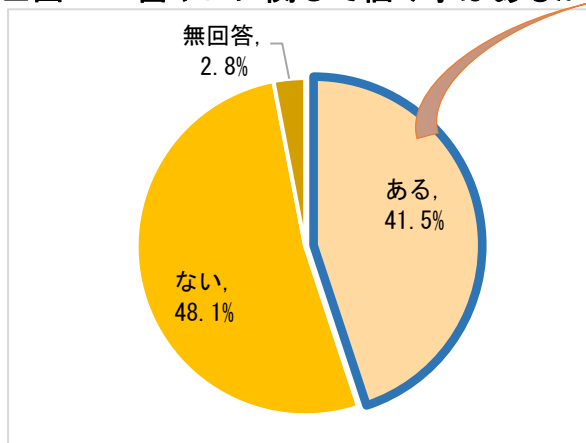
■ 図 50 歯科医院を受診するときの気持ち



■ 図 51 歯科医院にはどんな時に受診する



■ 図 52 歯や口に関して悩み事はあるか



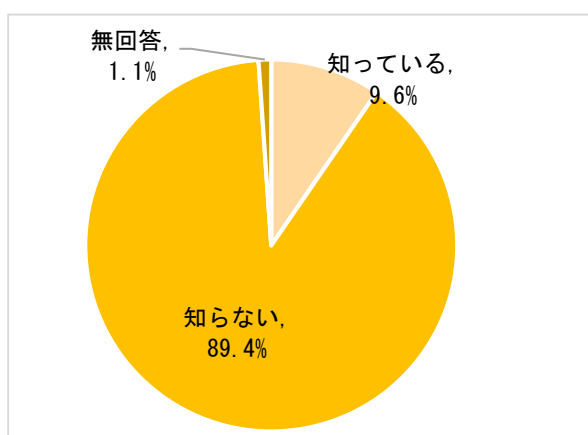
■ 表 29 悩み事がある 39 人 (41.5%) のうち実際に歯科治療を受けたか

行った	近いうちに 行く予定	行く予定 はない	無回答
12 人	4 人	19 人	5 人

■ 行く予定がない理由は

- ・ かかりつけ医がない 3 人
- ・ 忙しくて時間がない 2 人
- ・ 歯科医院に行くのが面倒であるため 8 人
- ・ お金がかかるのがいやだ 3 人
- ・ 歯科医院は怖いイメージがある 5 人
- ・ 歯科医院への通院困難 2 人 など

■ 図 53 認定障害者診療医を知っているか



《評価》 表 30 第 2 次歯科保健計画評価

	指標		ベースライン (平成26年度)	目標値	最新値 (令和元年度)	評価
フォローアップ	重点指標 かかりつけ歯科医をもつ 要介護者の割合	胎内市	59.5%	60%以上	57.4%	E
		新潟県	—	—	—	—
	歯の治療を受けたいと思 っても、受けられなかった 要介護者の割合	胎内市	40.7%	減少	19.5%	A
		新潟県	—	—	—	—
セルフケア	お口のリハビリをしている 要介護者の割合	胎内市	21.4%	22%以上	21.5%	C
		新潟県	—	—	—	—
フォローアップ	歯科医が往診してくれる ことを知っている要介護 者の割合	胎内市	32.1%	33%以上	38.3%	A
		新潟県	—	—	—	—

《現状と課題》

要介護者はでかかりつけ歯科医を持っている割合が 57.4%と目標値を達成できませんでした。(図 37) また、障がい者では 60%がかかりつけ歯科医を持っている状況です。(図 49)

要介護者では口腔内に困り事があっても、「我慢できる」「通院困難」「往診制度を知らない」などを理由に受診をしていない方もいます。(図 39、表 28) 一方、障がい者では「痛みなど症状があったら受診する」が半数になっていますが、歯や口に悩み事がある 41.5%のうち受診しない方もいます。(図 52) 行かない理由としては「歯科医院に行くのが面倒」「歯科医院は怖いイメージがある」「お金がかかる」などであり、悪くなってから治療するための受診という考えが強くあります。(表 29) 定期健診をすることで怖いイメージや金銭的な問題が解決できるのではないかと考えます。

障がい者施設職員からは「1人で受診する不安(診察の予約や診療の結果の説明)を持っている者もいるので、通院を介助する仕組み作りも必要」との声もありました。また、障害者歯科診療に従事できる歯科医師として「認定障害者診療医」が地域にいることを知っている割合が 9.6%となっており、今後は情報提供していく必要があります。(図 53)

通院が困難な者に対しては県の訪問歯科診療の他、胎内市の歯科医院でも往診をしており、治療を希望している方が、身近な地域で歯や口の気になることを相談したり、確実に治療が受けられるように、受診の体制整備を歯科医院と連携し検討していきたいです。

さらに、施設の実態として歯科健診を行っている施設は少なく、昼食後の歯みがきについても個人に任せるといった施設も多くありました。要介護者・障がい者等の口腔衛生、口腔機能の維持・向上を保つには本人だけでは十分なケアはできません。介護者や家族、介護支援専門員、相談支援事業所職員、障がい者施設職員等の多職種が口腔ケア等の必要性を理解し、行政と連携した取り組みが必要となっています。